

平成17年10月7日

淀川水系流域委員会

委員長 寺田 武彦 様

川上ダム建設促進期成同盟会

会長 西山 甲平

川上ダム本体工事早期着手に関する意見書

淀川水系の河川整備のあり方について、貴委員会が精力的に審議されていることに対して敬意を表します。

川上ダム建設促進期成同盟会は、遊水地関係者、河川改修を求める関係者、水道未給水関係者、川上ダム水没関係者、川上ダム上下流関係者からなる20組織が集まり、去る平成17年2月25日に会を結成した、「一日も早く川上ダムを完成させてほしい」と願う組織であります。4月9日には、川上ダム建設の地元「青山ホール」で500人余が参集して「川上ダム早期着工、早期完成」を目指す決起集会を開催いたしました。

言うまでもなく、岩倉峡上流上野地域は浸水被害の歴史であります。多くの住民が生命と財産を脅かされてきた歴史です。地域には、岩倉峡を開削して洪水を下流に流して欲しいと懇願する強い要望がありますが、私たちは、上流地域は上流での治水対策でという国の示す方針を妥協して受け入れました。それが、上野遊水地であり川上ダムであります。

治水対策における公共事業には大きな犠牲が伴います。川上ダムの水没関係者ばかり、遊水地の地権者ばかりであります。私たちは、自らの生命と財産を守り未来に安全と安心を得るため犠牲を受け入れましたが、この効果が下流沿川住民や蓄積された資材に及ぶことは言うまでもありません。

また、川上ダム予定地から下流の三重県管理区間沿川住民にとっては川上ダムこそ首根っこであり河川改修と相まって治水対策の要です。

更に、水道未給水地区住民が首を長くして待っている安定取水のための川上ダム。

これらは、国民として決して贅沢な要望ではないと思っております。

先ほど述べました平成17年4月9日の決起集会では、三重県知事、伊賀市長、地元選出国會議員、県議會議員、市議會議員の皆さんが賛意を強く表明さ

れ、私たちを励ましてくれたのです。地域住民の生命と財産、生活、福祉に力添えをいただいている代表者が川上ダム建設促進を強く要望しているのです。この重みを大事にしない公共事業があるのでしょうか。

洪水がいつ私たちに災いをもたらすかわかりません。いつ大濁水が起きても不自然ではありません。洪水被害、濁水のマスコミ報道に接するたびに「この地域でなくてよかった」と思うのは私たちだけではありません。

先日8月5日の流域委員会では、川上ダム建設方針に賛成できない旨の意見を述べられ、また、8月20日の木津川上流部会の審議を聞いていても、正に繰り返し議論、委員による反対意見の述べあいとしか感じられませんでした。流域委員会の皆さんが時間をかけて議論されることに私たちは止めてくださいとは言いません。がしかし、皆さんの議論は、地域の実情、住民の気持ちをくんだ議論とはほど遠いと言うことを述べて意見といたします。